米に関するマンスリーレポート

（平成24年1月13日公表）

農林水産省

【お知らせ】

※　「Ⅰ　米取引関係者の判断」について、より米取引関係者の動向を適切に反映したものとなるよう、今号からアンケート対象事業者を拡充し、新たに小売（スーパーマーケット・生協）及び中食・外食関係の事業者にご参加いただくことにしました。

※　併せて、「１．③　取引関係者が判断を行うに当たり考慮した要因」について、項目を追加したほか、「２．②」を「主食用米の販売価格」から「主食用米の価格」に修正しています。

【本資料の目的】

「米に関するマンスリーレポート」は、米に関する価格動向や需給動向に関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

【利用上の注意】

１．「米に関するマンスリーレポート」は、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあり得ます。

２．本レポートは、原則として公表２営業日前までの公表資料を反映しています。

３．本資料に関する問い合わせ先

生産局農産部農産企画課
担当者：岩井、島本
代表：03-3502-8111（内線4975）
ダイヤルイン：03-6738-8973
FAX：03-6738-8976

目　次

Ⅰ　米取引関係者の判断（平成23年12月）
１．国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断（全体）・・・・・・・・・１
２．自社の取引状況に関する判断（業態毎）・・・・・・・・・・・・・・・・・２

Ⅱ　米に関する各種指標
１．集出荷段階の動向
（１）相対取引価格・数量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
① 相対取引価格（主な産地銘柄別、平成23年11月）
② 相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成23年産米）
③ 相対取引価格（年産別）
④ 相対取引数量（累積数量、主な産地銘柄別、平成23年11月）
（２）民間在庫（出荷段階）の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
（３）23年産米相対取引基準価格(全農)の推移・・・・・・・・・・・・・・・１０
（４）産地銘柄別概算金の設定状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
① 全農系統の22年産の概算金
② 全集連系統の22年産の概算金
（５）㈱加工用米取引センターの取引結果・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
（６）米の先物取引価格の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
① 東京穀物商品取引所
② 関西商品取引所
２．卸売段階の動向
（１）民間在庫（販売段階）の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
（２）業者間取引の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
① 日本コメ市場（随時取引の結果）
② 日本コメ市場・クリスタルライス（取引会の結果）
３．小売・消費段階の動向
（１）小売価格・消費者物価の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
① 消費者物価指数の推移
② 小売物価統計による推移
③ 小売価格の推移（ＰＯＳデータ）
（２）購入数量の推移（家計調査）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
（３）米の消費動向（米穀機構による調査）・・・・・・・・・・・・・・・・１９
４．生産段階の動向
（１）国産米の作況・収穫量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
（２）平成23年産水陸稲の収穫量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
① 平成23年産水陸稲の収穫量（全国農業地域別）
② 全国・都道府県別作況指数
（３）民間在庫（生産段階）の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
（４）水稲うるち玄米の検査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
（５）加工用米及び新規需要米の取組状況　・・・・・・・・・・・・・・・・２３
① 加工用米の生産量
② 新規需要米の用途別認定状況
５．備蓄米及びMA米の動向
（１）国内産備蓄米の売買数量及び在庫数量　・・・・・・・・・・・・・・・２４
① 23年産米の政府備蓄米買入入札数量（都道府県別契約数量）
② 国内産備蓄米の売渡数量
③ 政府備蓄米の在庫の状況（平成23年6月末現在）
（２）ＭＡ米（一般・ＳＢＳ）の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
① ＭＡ米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）
② 一般輸入米（加工原材料用）の販売状況(平成23年度)
③ ＳＢＳ米の販売状況(平成23年度)

Ⅰ　米取引関係者の判断(平成23年12月)

○　米取引関係者に対して、需給動向や価格水準などの取引動向に関するアンケートを実施し、その結果をＤＩとして算出したものである（詳細はＰ５）を参照）。

１．国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断（全体）

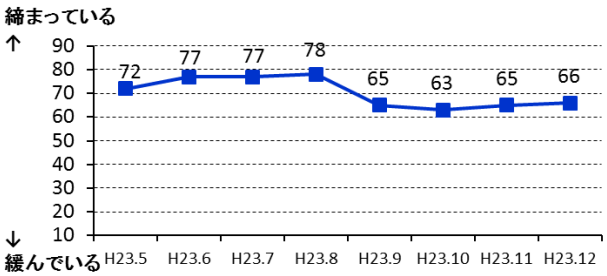
①主食用米の需給動向

（ア）現状判断ＤＩ
前月からの増減　＋１　（今月の数値　６６）

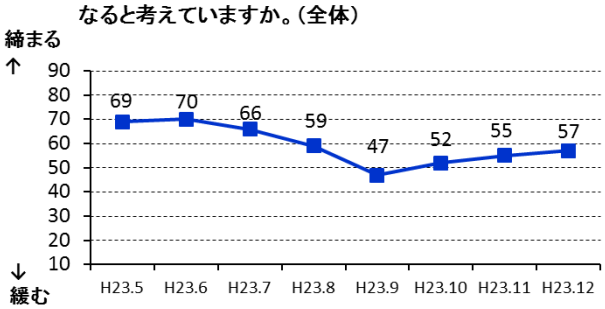
（イ）見通し判断ＤＩ（向こう３ヶ月）
前月からの増減　＋２　（今月の数値　５７）

※　当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来)締まる」という見方が前月より強くなり、反対に０に近づけば、「緩んでいる」/「(将来)緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

①-ア 国内の主食用米の"現在の需給動向"について、どう考えていますか。(全体)



①-イ 国内の主食用米の"向こう3ヶ月の需給動向"について、どうなると考えていますか。(全体)



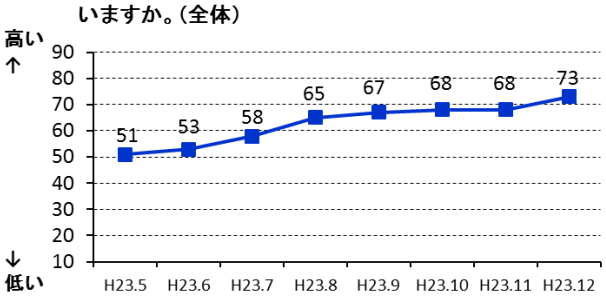
②主食用米の米価水準

（ア）現状判断ＤＩ
前月からの増減　＋５　（今月の数値　７３）

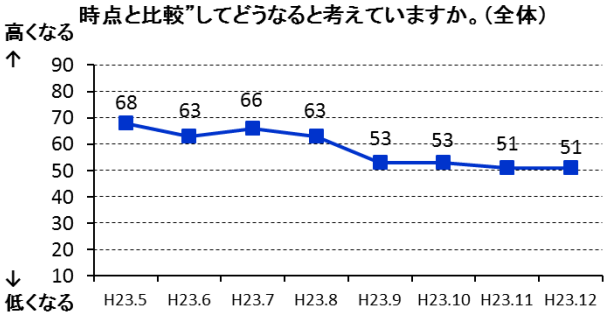
（イ）見通し判断ＤＩ（向こう３ヶ月）
前月からの増減　±０　（今月の数値　５１）

※　当月の数値が前月と比較し100に近づけば、米価水準が高い/米価水準が高くなるという見方が前月より強くなり、反対に０に近づけば、米価水準が低い/米価水準が低くなるという見方が前月より強くなった傾向を示す。

②-ア 国内の主食用米の"現在の米価水準"について、どう考えていますか。(全体)



②-イ 国内の主食用米の"向こう3ヶ月の米価水準"について、"現時点と比較"してどうなると考えていますか。(全体)



③　取引関係者が①及び②の判断を行うに当たり、主に考慮した要因

	作柄	国内の在庫水準	国の政策	消費者の動向	競合商品の販売動向	米穀の調達状況	その他
H23.5	3%	33%	12%	17%	7%	－	28%
H23.6	5%	38%	8%	20%	8%	－	20%
H23.7	7%	34%	11%	12%	8%	－	28%
H23.8	14%	28%	7%	19%	7%	－	25%
H23.9	22%	23%	4%	23%	7%	－	21%
H23.10	22%	23%	3%	27%	6%	－	19%
H23.11	14%	18%	3%	34%	10%	－	21%
H23.12	8%	11%	2%	22%	3%	46%	8%

２．自社の取引状況に関する判断（業態毎）

①主食用米の販売数量

※　当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「増えた」／「（将来）増える」　という見方が前月より強くなり、反対に０に近づけば、「減った」／「（将来）減る」　という見方が前月より強くなった傾向を示す。

（ア）今月の販売数量に関する現状判断ＤＩ

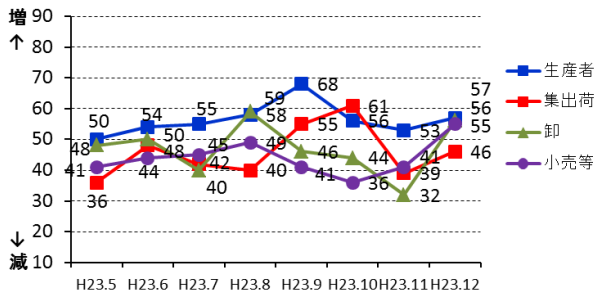
ａ．先月との比較

生産者：前月からの増減　＋４　（今月の数値　５７）
集出荷：前月からの増減　＋７　（今月の数値　４６）
卸　：前月からの増減　＋２４（今月の数値　５６）
小売等：前月からの増減　＋１４（今月の数値　５５）

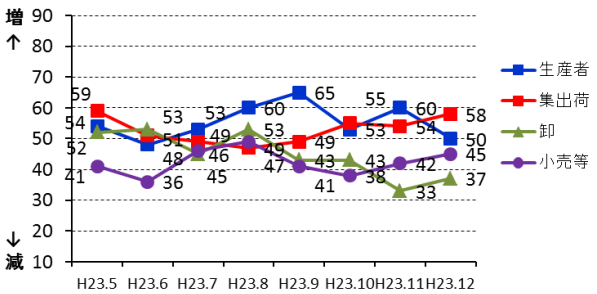
ｂ．前年同月との比較

生産者：前月からの増減　－１０（今月の数値　５０）
集出荷：前月からの増減　＋４　（今月の数値　５８）
卸　：前月からの増減　＋４　（今月の数値　３７）
小売等：前月からの増減　＋３　（今月の数値　４５）

①-ア-a 貴社の”今月”の主食用米の”販売数量”について、”先月と比較”するといかがですか。



①-ア-b 貴社の”今月”の主食用米の”販売数量”について、”前年同月と比較”するといかがですか。



（イ）来月の販売数量に関する見通しＤＩ

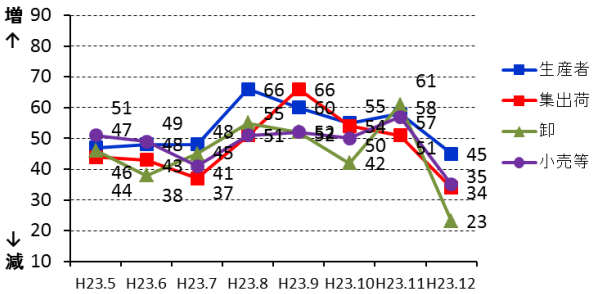
ａ．今月との比較

生産者：前月からの増減　－１３（今月の数値　４５）
集出荷：前月からの増減　－１７（今月の数値　３４）
卸　：前月からの増減　－３８（今月の数値　２３）
小売等：前月からの増減　－２２（今月の数値　３５）

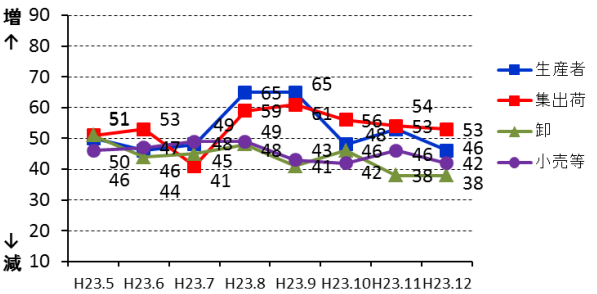
ｂ．前年同月との比較

生産者：前月からの増減　－７　（今月の数値　４６）
集出荷：前月からの増減　－１　（今月の数値　５３）
卸　：前月からの増減　±０　（今月の数値　３８）
小売等：前月からの増減　－４　（今月の数値　４２）

①-イ-a 貴社の”来月”の主食用米の”販売数量”について、”今月と比較”してどうなると考えていますか。



①-イ-b 貴社の”来月”の主食用米の”販売数量”について、”前年 同月と比較”してどうなると考えていますか。



②主食用米の価格

※　当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「高くなった」／「(将来)高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に０に近づけば、「低くなった」／「(将来)低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

（ア）今月の価格に関する現状判断ＤＩ

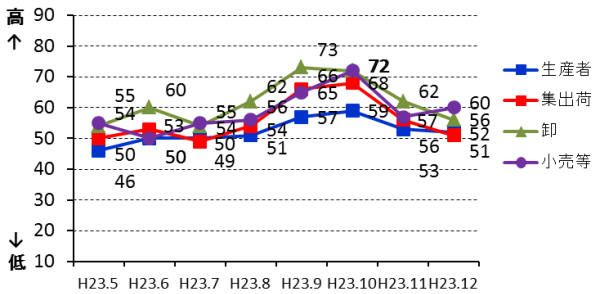
ａ. 先月との比較

生産者：前月からの増減　－１　（今月の数値　５２）
集出荷：前月からの増減　－５　（今月の数値　５１）
卸　：前月からの増減　－６　（今月の数値　５６）
小売等：前月からの増減　＋３　（今月の数値　６０）

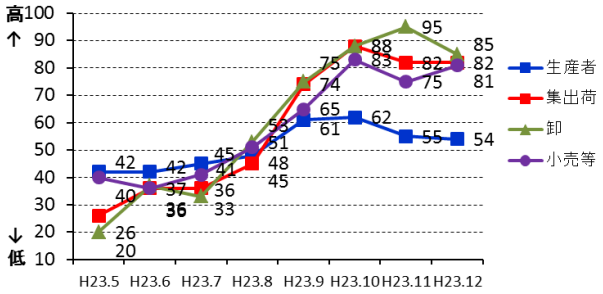
ｂ. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減　－１　（今月の数値　５４）
集出荷：前月からの増減　±０　（今月の数値　８２）
卸　：前月からの増減　－１０（今月の数値　８５）
小売等：前月からの増減　＋６　（今月の数値　８１）

②-ア-a 貴社の"今月"の主食用米の"価格"について、"先月と比較"するといかがですか。



②-ア-b 貴社の"今月"の主食用米の"価格"について、"前年同月と比較"するといかがですか。



（イ）来月の価格に関する見通しＤＩ

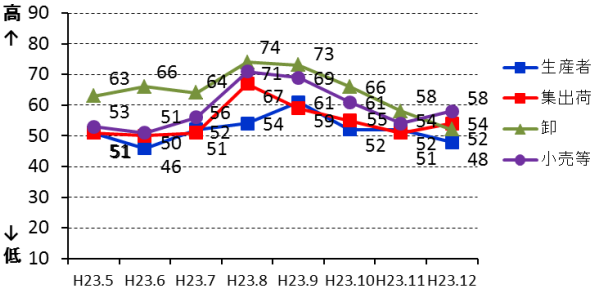
ａ. 今月との比較

生産者：前月からの増減　－４　（今月の数値　４８）
集出荷：前月からの増減　＋３　（今月の数値　５４）
卸　：前月からの増減　－６　（今月の数値　５２）
小売等：前月からの増減　＋４　（今月の数値　５８）

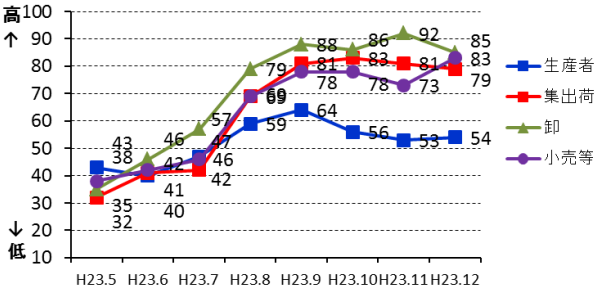
ｂ. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減　＋１　（今月の数値　５４）
集出荷：前月からの増減　－２　（今月の数値　７９）
卸　：前月からの増減　－７　（今月の数値　８５）
小売等：前月からの増減　＋１０（今月の数値　８３）

②-イ-a 貴社の"来月"の主食用米の"価格"について、"今月と比較"してどうなると考えていますか。



②-イ-b 貴社の"来月"の主食用米の"価格"について、"前年同月"と比較してどうなると考えていますか。



③主食用米の在庫量

※　当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「多くなった」／「(将来) 多くなる」という見方が前月より強くなり、反対に０に近づけば、「少なくなった」／「(将来)少なくなる」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

（ア）今月の在庫量に関する現状判断ＤＩ

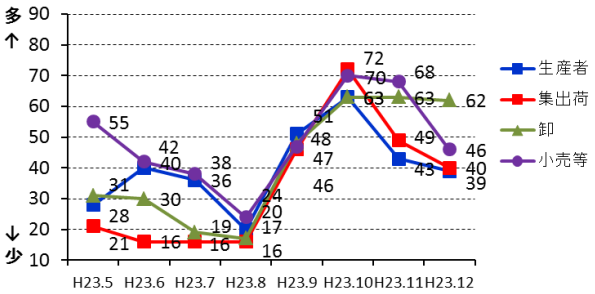
ａ. 先月との比較

生産者：前月からの増減　－４　（今月の数値　３９）
集出荷：前月からの増減　－９　（今月の数値　４０）
卸　：前月からの増減　－１　（今月の数値　６２）
小売等：前月からの増減　－２２（今月の数値　４６）

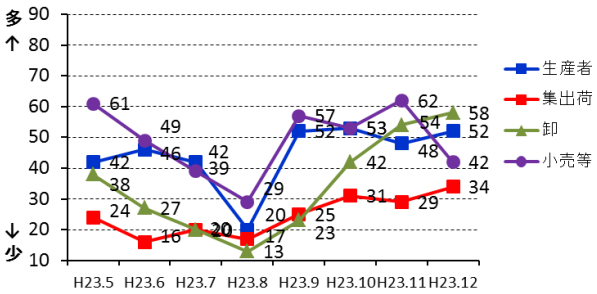
ｂ. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減　＋４　（今月の数値　５２）
集出荷：前月からの増減　＋５　（今月の数値　３４）
卸　：前月からの増減　＋４　（今月の数値　５８）
小売等：前月からの増減　－２０（今月の数値　４２）

③-ア-a 貴社の”今月”の主食用米の”在庫量”について、”先月と比較”するといかがですか。



③-ア-b 貴社の”今月”の主食用米の”在庫量”は、”前年同月と比較”するといかがですか。



（イ）来月の在庫量に関する見通しＤＩ

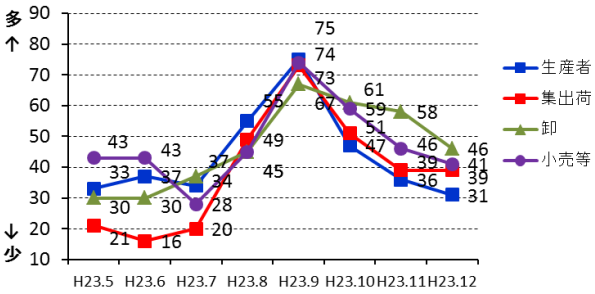
ａ. 今月との比較

生産者：前月からの増減　－５　（今月の数値　３１）
集出荷：前月からの増減　±０　（今月の数値　３９）
卸　：前月からの増減　－１２（今月の数値　４６）
小売等：前月からの増減　－５　（今月の数値　４１）

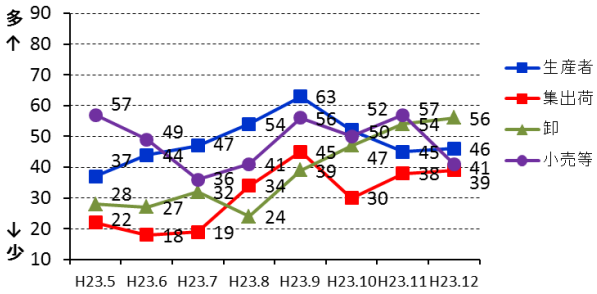
ｂ. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減　＋１　（今月の数値　４６）
集出荷：前月からの増減　＋１　（今月の数値　３９）
卸　：前月からの増減　＋２　（今月の数値　５６）
小売等：前月からの増減　－１６（今月の数値　４１）

③-イ-a 貴社の”来月”の主食用米の”在庫量”について、”今月と比較”してどうなると考えていますか。



③-イ-b 貴社の”来月”の主食用米の”在庫量”について、”前年同月と比較”してどうなると考えていますか。



《アンケート方法等》

〇期間：１２月１日から２０日までの取引状況を踏まえて回答

〇方法：インターネットを経由したオンライン上で回答

〇アンケート対象者：生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の１４１客体
（アンケート対象者は原則固定）

〇有効回答数：全体で１１５客体

生産者・・・・・・・・・・・・・・１５
集出荷業者／団体・・・・・・・・・２１
卸売業者（主に主食用米）・・・・３１
小売業者／中食・外食関係業者・・３４
その他・・・・・・・・・・・・・・１４

※「その他」は以下の業者を示している。
・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者
・加工原材料米穀を使用し、加工食品（酒類を含む）を製造・販売する者

《利用上の注意》

〇　本アンケート調査は、当面の間試行的に実施するものであり、今後必要に応じて変更することもありうる。

〇　表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、計と内訳は一致しないことがある。

《ＤＩの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する５段階の判断（評価）にそれぞれ点数（評価点）を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じてＤＩを算出。

ただし、ＤＩの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ（量感）を表すものではない。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じＤＩが観測されることに注意が必要である。

（ＤＩの算出例）

問：国内の主食用米の“向こう３ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点（A）	＋1	＋0．75	＋0．5	＋0．25	0
構成比（B）	17．8	20．0	20．0	22．2	20．0
各DI（C＝A×B）	17．8	15	10	5．6	0
DI（合計）	48．4				

Ⅱ　米に関する各種指標

1. 集出荷段階の動向

（１）相対取引価格・数量

①　相対取引価格（平成23年産米の主な産地銘柄別、平成23年11月）（速報）

（単位：円／玄米60kg）

産地		品種銘柄	（地域区分）	23年11月 ①	【参考】 23年10月 ②	対前月比 ①/②	22年11月（22年産） ③	対前年同期比 ①/③
北海道	北海道	きらら397		13,904	13,773	(101%)	11,030	(126%)
	北海道	ななつぼし		13,880	13,924	(100%)	11,540	(120%)
東北	青森	つがるロマン		13,433	13,680	(98%)	11,559	(116%)
	青森	まっしぐら		13,341	13,417	(99%)	10,907	(122%)
	岩手	ひとめぼれ		14,346	14,150	(101%)	11,622	(123%)
	岩手	あきたこまち		14,315	14,296	(100%)	11,460	(125%)
	宮城	ひとめぼれ		14,654	14,821	(99%)	12,174	(120%)
	宮城	ササニシキ		14,813	14,733	(101%)	12,150	(122%)
	秋田	あきたこまち		15,381	15,384	(100%)	12,404	(124%)
	山形	はえぬき		14,503	14,524	(100%)	11,428	(127%)
	福島	コシヒカリ	会津	16,003	16,153	(99%)	13,583	(118%)
	福島	コシヒカリ	中通り	14,285	14,759	(97%)	12,282	(116%)
	福島	コシヒカリ	浜通り	―	―	―	12,558	―
	福島	ひとめぼれ		13,671	13,932	(98%)	11,307	(121%)
関東・東山	茨城	コシヒカリ		15,821	15,727	(101%)	13,033	(121%)
	栃木	コシヒカリ		15,579	15,712	(99%)	12,386	(126%)
	埼玉	彩のかがやき		14,165	14,155	(100%)	―	―
	千葉	コシヒカリ		15,940	15,143	(105%)	12,720	(125%)
	長野	コシヒカリ		15,899	15,929	(100%)	13,678	(116%)
北陸	新潟	コシヒカリ	一般	18,178	17,897	(102%)	15,370	(118%)
	新潟	コシヒカリ	魚沼	23,111	22,741	(102%)	21,566	(107%)
	新潟	コシヒカリ	佐渡	18,724	18,341	(102%)	15,676	(119%)
	新潟	コシヒカリ	岩船	18,620	―	―	15,679	(119%)
	富山	コシヒカリ		16,239	16,093	(101%)	13,625	(119%)
	石川	コシヒカリ		16,092	16,290	(99%)	―	―
	福井	コシヒカリ		16,036	16,047	(100%)	13,139	(122%)
	福井	ハナエチゼン		―	14,655	―	12,034	―
東海・近畿	三重	コシヒカリ	一般	15,941	15,938	(100%)	13,047	(122%)
	滋賀	コシヒカリ		15,855	15,853	(100%)	13,352	(119%)
	滋賀	キヌヒカリ		15,105	15,154	(100%)	―	―
	兵庫	コシヒカリ		15,803	15,740	(100%)	13,613	(116%)
中国・四国	鳥取	コシヒカリ		―	―	―	―	―
	島根	コシヒカリ		15,732	―	―	12,810	(123%)
	広島	コシヒカリ		15,112	15,007	(101%)	11,631	(130%)
	山口	コシヒカリ		―	14,580	―	12,645	―
	徳島	コシヒカリ		14,621	―	―	13,150	(111%)
	香川	ヒノヒカリ		14,573	―	―	―	―
	高知	コシヒカリ		―	―	―	―	―
九州	福岡	ヒノヒカリ		14,710	14,631	(101%)	12,266	(120%)
	佐賀	夢しずく		14,490	14,659	(99%)	12,113	(120%)
	熊本	ヒノヒカリ		―	―	―	―	―
	大分	ヒノヒカリ		―	―	―	―	―
	宮崎	コシヒカリ		―	―	―	―	―
	鹿児島	ヒノヒカリ		―	―	―	―	―
全銘柄平均価格				15,178	15,154	(100%)	12,630	(120%)

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：相対取引価格は、ア 全国出荷団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者と卸売業者等の主食用の相対取引契約（数量と価格が決定した時点を基準としている。）の価格（運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格。）であり、その契約数量を用いて加重平均した価格である。その際、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本）の産地銘柄については受渡地を西日本としているものを加重平均している。

2：また、相対取引価格は、個々の契約数量に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて等級及び付加価値等（栽培方法等）の価格調整が行われることがある。

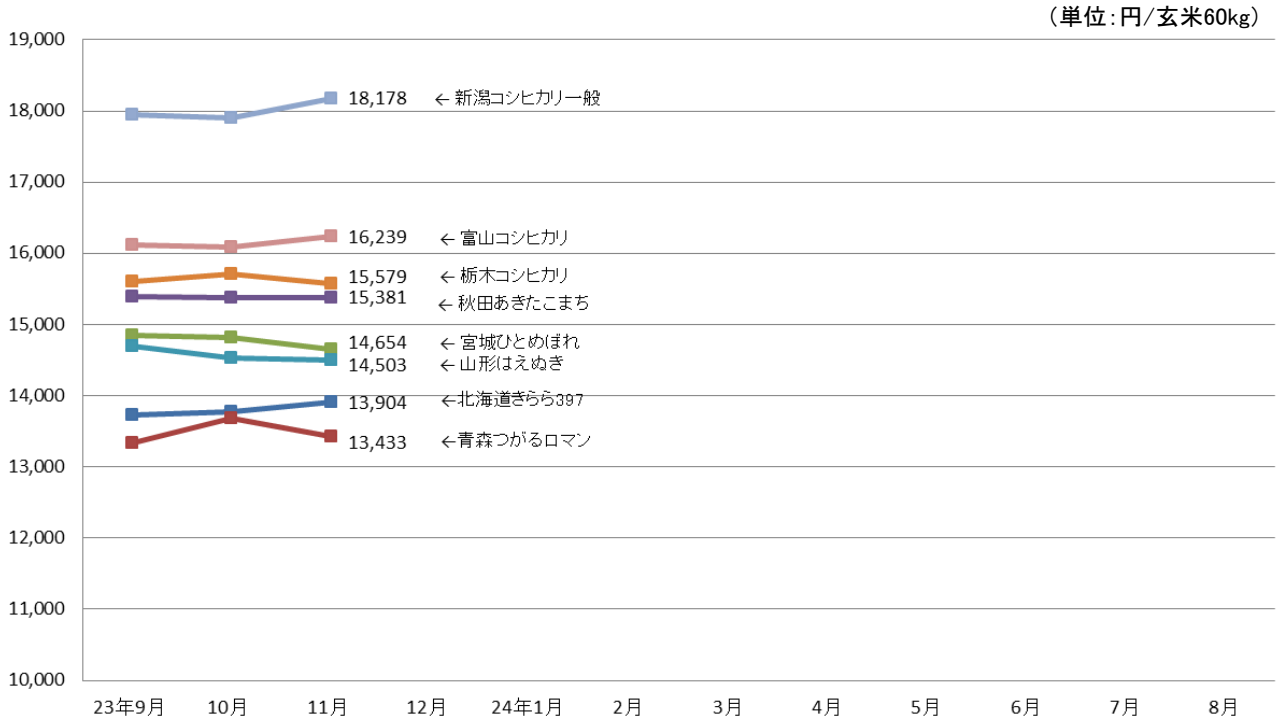
3：産地銘柄は、ア 22年産の公表対象産地銘柄が存在した道府県における当該産地銘柄、又はイ ア以外の道府県における22年産の検査数量の最も多かった1銘柄のうち、22年産の農産物検査受検数量原則15,000トン以上のものであり、月1,000トン以上の取引があったものである。

4：全銘柄平均価格は、報告対象産地銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

5：22年11月は22年産の価格である。

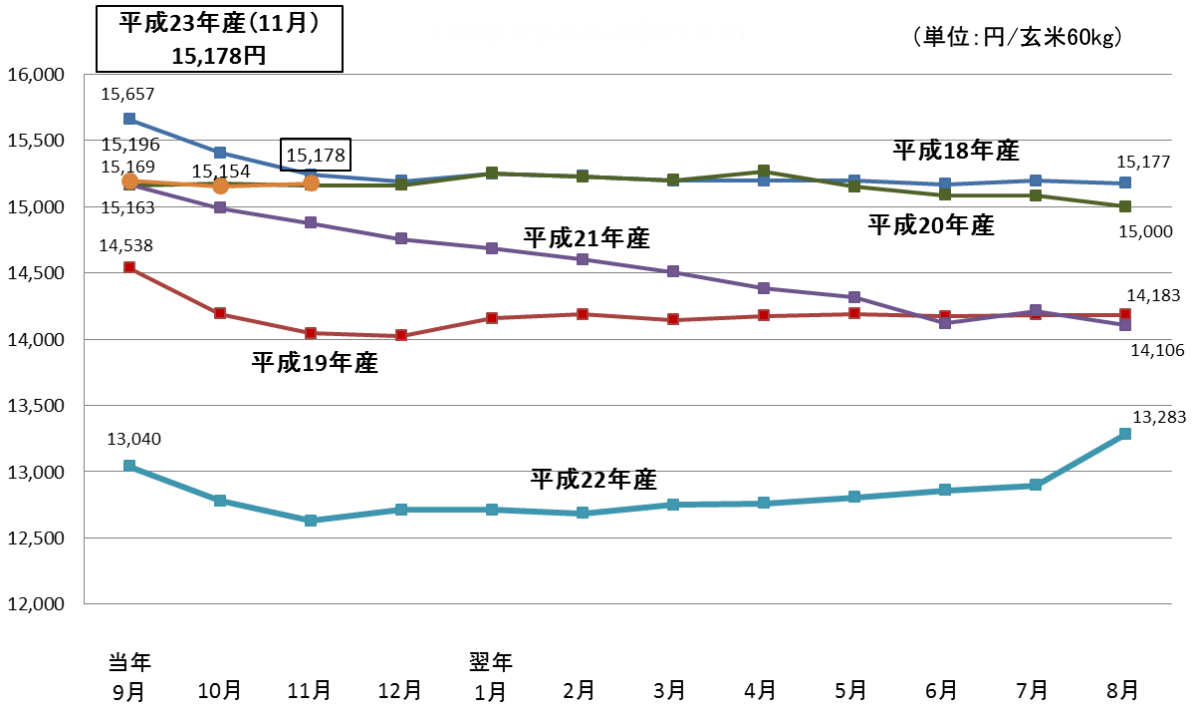
6：23年産については速報値である。

②　相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成23年産米）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1：相対取引価格に関する留意点については、①の注釈を参照。
　2：月間の取引量が1,000トン未満となった産地銘柄については、当該月の価格は上表に掲載していない。

③　相対取引価格（年産別）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注：相対取引価格に関する留意点については、①の注釈を参照。

④ 相対取引数量

（累積数量、平成23年産米の主な産地銘柄別、平成23年11月）（速報）

（単位：玄米トン）

産地		品種銘柄	（地域区分）	23年産（23年11月まで）①	（前年比）①/②	（前々年比）①/③	22年産（22年11月まで）②	21年産（21年11月まで）③
北海道	北海道	きらら397		46,770	(283%)	(377%)	16,552	12,401
	北海道	ななつぼし		81,273	(318%)	(276%)	25,553	29,400
東北	青森	つがるロマン		12,423	(146%)	(45%)	8,521	27,798
	青森	まっしぐら		25,720	(541%)	(132%)	4,756	19,487
	岩手	ひとめぼれ		61,705	(310%)	(305%)	19,898	20,208
	岩手	あきたこまち		13,413	(224%)	(355%)	6,000	3,784
	宮城	ひとめぼれ		56,149	(337%)	(220%)	16,646	25,529
	宮城	ササニシキ		3,972	(154%)	(123%)	2,572	3,230
	秋田	あきたこまち		74,349	(208%)	(154%)	35,710	48,219
	山形	はえぬき		29,641	(170%)	(131%)	17,414	22,630
	福島	コシヒカリ	会津	3,541	(36%)	(56%)	9,794	6,352
	福島	コシヒカリ	中通り	6,418	(70%)	(122%)	9,170	5,258
	福島	コシヒカリ	浜通り	51	(1%)	(3%)	3,713	1,648
	福島	ひとめぼれ		4,962	(48%)	(69%)	10,368	7,150
関東・東山	茨城	コシヒカリ		16,503	(134%)	(117%)	12,273	14,103
	栃木	コシヒカリ		26,637	(160%)	(107%)	16,689	24,962
	埼玉	彩のかがやき		3,605	(3190%)	(76%)	113	4,775
	千葉	コシヒカリ		18,543	(130%)	(122%)	14,295	15,164
	長野	コシヒカリ		16,418	(186%)	(127%)	8,837	12,910
北陸	新潟	コシヒカリ	一般	65,882	(185%)	(144%)	35,516	45,795
	新潟	コシヒカリ	魚沼	12,731	(213%)	(130%)	5,984	9,810
	新潟	コシヒカリ	佐渡	10,602	(202%)	(131%)	5,247	8,078
	新潟	コシヒカリ	岩船	7,919	(145%)	(127%)	5,459	6,231
	富山	コシヒカリ		44,815	(225%)	(277%)	19,939	16,150
	石川	コシヒカリ		7,207	(390%)	(186%)	1,847	3,866
	福井	コシヒカリ		10,683	(119%)	(203%)	9,002	5,275
	福井	ハナエチゼン		8,395	(99%)	(107%)	8,461	7,821
東海・近畿	三重	コシヒカリ	一般	10,714	(295%)	(176%)	3,626	6,090
	滋賀	コシヒカリ		9,946	(151%)	(113%)	6,604	8,784
	滋賀	キヌヒカリ		4,291	(172%)	(65%)	2,497	6,631
	兵庫	コシヒカリ		4,601	(114%)	(173%)	4,038	2,664
中国・四国	鳥取	コシヒカリ		2,883	(59%)	(44%)	4,897	6,499
	島根	コシヒカリ		8,845	(126%)	(127%)	7,036	6,944
	広島	コシヒカリ		4,453	(40%)	(127%)	11,160	3,500
	山口	コシヒカリ		4,835	(97%)	(105%)	4,994	4,606
	徳島	コシヒカリ		7,927	(119%)	(84%)	6,644	9,419
	香川	ヒノヒカリ		1,989	(171%)	(83%)	1,166	2,398
	高知	コシヒカリ		4,112	(138%)	(90%)	2,978	4,579
九州	福岡	ヒノヒカリ		5,196	(263%)	(223%)	1,979	2,326
	佐賀	夢しずく		6,842	(347%)	(360%)	1,973	1,902
	熊本	ヒノヒカリ		1,891	(163%)	(103%)	1,160	1,836
	大分	ヒノヒカリ		1,645	(144%)	(72%)	1,143	2,295
	宮崎	コシヒカリ		6,176	(103%)	(71%)	6,002	8,748
	鹿児島	ヒノヒカリ		1,641	(726%)	(81%)	226	2,036
全銘柄合計契約数量				982,205	(195%)	(149%)	504,057	659,477

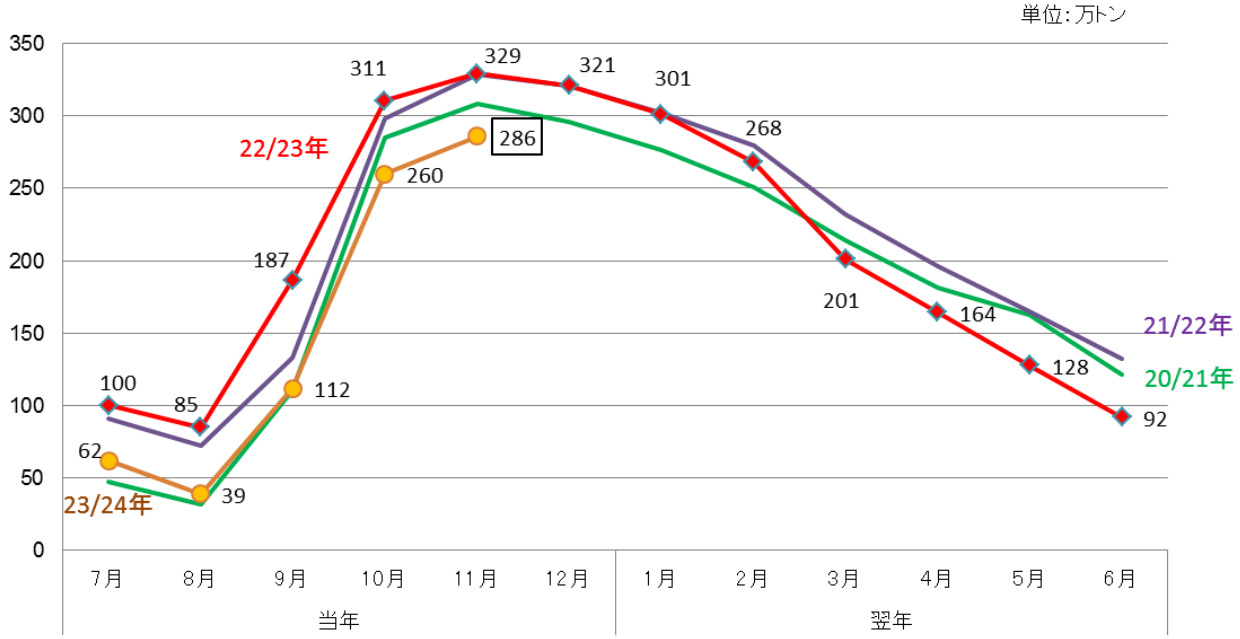
資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：相対取引数量は、ア 全国団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者が、卸売業者等と主食用の相対取引契約（数量と価格が決定した時点を基準としている。）を行った数量である。なお、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本の産地銘柄については受渡地を西日本としているものを対象としている。

2：産地銘柄は、ア 22年産の公表対象産地銘柄が存在した道府県における当該産地銘柄、又はイ ア以外の道府県における22年産の検査数量の最も多かった1銘柄のうち、22年産の農産物検査受検数量原則15,000トン以上のもの。

3：全銘柄合計契約数量は、農林水産省が公表している相対取引価格の報告対象銘柄の契約数量の合計。

（２）民間在庫（出荷段階）の推移



（単位：万トン）

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	平均
20/21年	47	32	111	285	308	296	277	251	214	182	163	121	191
21/22年	91	73	133	299	328	321	303	279	232	197	165	132	213
対前年差	+44	+41	+22	+14	+20	+25	+26	+28	+18	+15	+2	+11	+22
22/23年	100	85	187	311	329	321	301	268	201	164	128	92	207
対前年差	+9	+12	+54	+12	+1	▲0	▲1	▲11	▲31	▲32	▲37	▲40	▲5
23/24年	62	39	112	260	286								152
対前年差	▲38	▲46	▲75	▲51	▲43								▲55

資料：農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」（～20年７月）、農林水産省「米穀の取引に関する報告徴収」（20年８月～）
注１：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米の月末在庫量（玄米換算）の値である。
２：米穀の出荷の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が500トン以上の者の値である。
３：期間については、22/23年であれば、22年７月～23年６月である。
４：22/23年７月末以降は、速報値である。
５：23年３月以降の値は、東日本大震災の影響により一部見込みが含まれている。
６：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

（３）23年産米相対取引基準価格（全農）の推移

（全農公表資料をもとに農林水産省において算出）

（円／60kg、建値：基準地着、１等、包装代・消費税込み）

期間	相対取引基準価格（全農）	相対取引価格（農林水産省）
23年 8/8～	15,912 （1）	非公表
8/15～	15,408 （2）	
8/22～	15,584 （5）	
8/29～	16,120 （11）	
9/5～	16,006 （19）	15,196 （84）
9/12～	16,848 （29）	
9/20～	16,638 （32）	
9/26～	16,101 （43）	
10/3～	15,887 （56）	15,154 （108）
10/11～	15,887 （56）	
10/17～	15,877 （56）	
10/24～	15,873 （57）	
10/31～	15,873 （57）	
11/7～	16,021 （57）	15,178 （106）
11/14～	16,021 （57）	
11/21～	16,021 （57）	
11/28～	16,021 （57）	
12/5～	16,021 （57）	－
12/12～	16,021 （57）	
12/19～	16,021 （57）	
12/26～	16,021 （57）	

注1：相対取引基準価格（全農）は、全農が公表している全産地銘柄の相対取引基準価格を基に、農林水産省において、消費税及び包装代（154円/60kg）を加算し、前年産の検査数量ウエイトを用いて加重平均したもの。

2：相対取引基準価格（全農）の欄の括弧内の数字は、全農が公表している相対取引基準価格の産地銘柄数。

3：相対取引価格（農林水産省）の欄の括弧内の数字は、農林水産省が公表している相対取引価格の全銘柄平均価格の算出に用いた産地銘柄数。

（４）産地銘柄別概算金の設定状況

①　全農系統の22年産の概算金

（単位：円/60kg、1等・包装込み）

産地銘柄		22年産概算金（当初）①	21年産概算金（当初）②	前年産との差額 ①－②	産地銘柄		22年産概算金（当初）①	21年産概算金（当初）②	前年産との差額 ①－②
北海道	きらら397	10,000	11,000	−1,000	新潟	コシヒカリ（一般）	12,300	13,700	−1,400
青森	つがるロマン	8,500	11,400	−2,900	新潟	コシヒカリ（魚沼）	16,500	18,700	−2,200
岩手	ひとめぼれ	8,700	12,300	−3,600	富山	コシヒカリ	11,000	13,000	−2,000
宮城	ひとめぼれ	8,700	12,300	−3,600	石川	コシヒカリ	10,400	12,350	−1,950
秋田	あきたこまち	9,000	12,300	−3,300	福井	ハナエチゼン	9,000	10,500	−1,500
山形	はえぬき	9,000	12,300	−3,300	三重	コシヒカリ（一般）	10,000	12,100	−2,100
福島	コシヒカリ（会津）	10,000	12,400	−2,400	滋賀	コシヒカリ	10,000	12,000	−2,000
福島	コシヒカリ（中通り）	9,400	12,000	−2,600	鳥取	コシヒカリ	10,500	12,500	−2,000
茨城	コシヒカリ	10,000	12,000	−2,000	島根	コシヒカリ	10,700	12,800	−2,100
栃木	コシヒカリ	10,000	12,100	−2,100	山口	コシヒカリ	10,020	12,000	−1,980
埼玉	コシヒカリ	9,500	12,000	−2,500	香川	コシヒカリ	9,900	12,000	−2,100
千葉	コシヒカリ	10,000	12,000	−2,000	福岡	夢つくし	10,800	12,600	−1,800
長野	コシヒカリ	10,360	12,160	−1,800	熊本	ヒノヒカリ	9,540	12,300	−2,760

注１：業界紙等の情報を基に農林水産省で取りまとめたものである。
　２：概算金はあくまで内金であり、最終的に販売価格が確定した段階で精算払が行われるものであることに注意が必要。また、販売状況を見ながら概算金の追加払を行うところもある。

②　全集連系統の22年産の概算金

（単位：円/60kg、1等・包装込み）

産地銘柄		22年産概算金（当初）①	21年産概算金（当初）②	前年産との差額 ①－②	産地銘柄		22年産概算金（当初）①	21年産概算金（当初）②	前年産との差額 ①－②
北海道	きらら397	10,000	11,000	−1,000	埼玉	コシヒカリ	9,500	12,000	−2,500
青森	つがるロマン	8,500	11,400	−2,900	千葉	コシヒカリ	10,000	12,500	−2,500
岩手	ひとめぼれ	8,700	12,300	−3,600	長野	コシヒカリ	10,360	12,160	−1,800
宮城	ひとめぼれ	8,700	12,300	−3,600	新潟	コシヒカリ（一般）	12,300	13,700	−1,400
秋田	あきたこまち	9,000	12,300	−3,300	新潟	コシヒカリ（魚沼）	16,500	18,700	−2,200
山形	はえぬき	9,000	12,300	−3,300	滋賀	コシヒカリ	10,000	12,000	−2,000
福島	コシヒカリ（会津）	10,000	12,400	−2,400	島根	コシヒカリ	10,700	12,800	−2,100
福島	コシヒカリ（中通り）	9,400	12,000	−2,600	福岡	夢つくし	10,800	12,600	−1,800
茨城	コシヒカリ	10,000	12,000	−2,000	熊本	ヒノヒカリ	9,540	12,300	−2,760
栃木	コシヒカリ	10,000	12,100	−2,100					

注１：業界紙等の情報を基に農林水産省で取りまとめたものである。
　２：概算金はあくまで内金であり、最終的に販売価格が確定した段階で精算払が行われるものであることに注意が必要。また、販売状況を見ながら概算金の追加払を行うところもある。

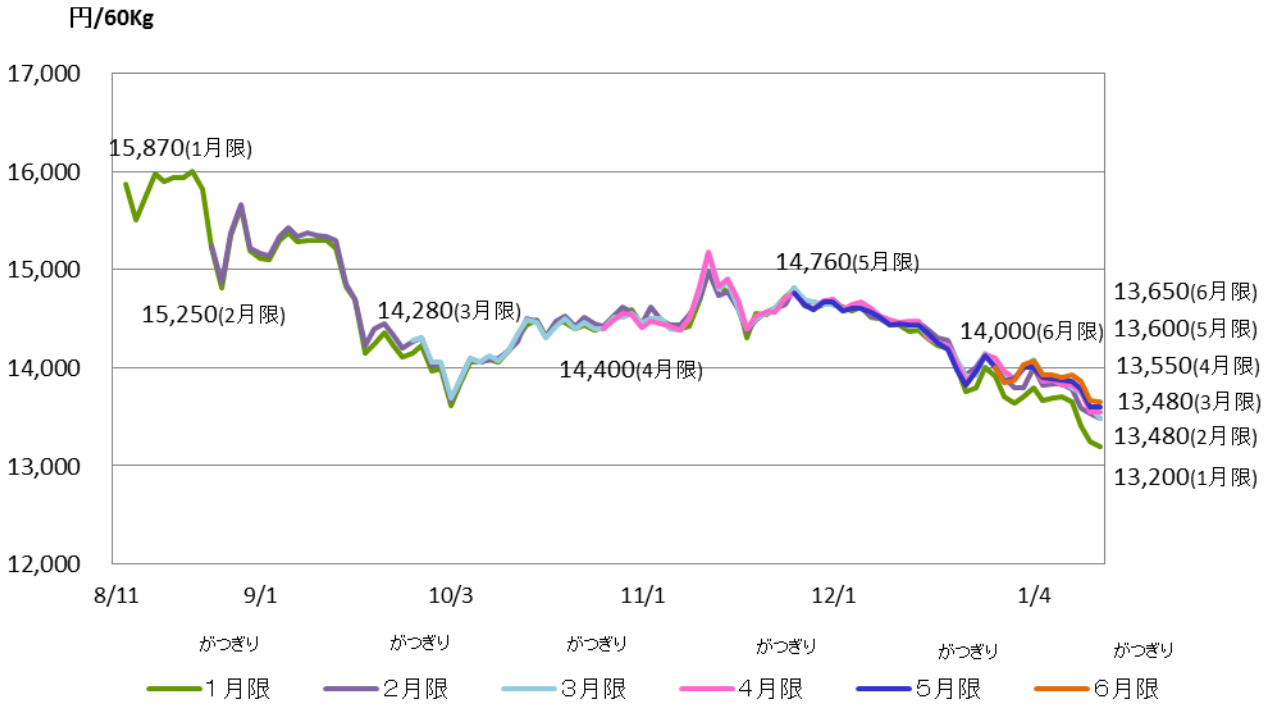
（５）（株）加工用米取引センターの取引結果

取引日	商品名	終値
12月20日（火曜日）	23年秋田あきたこまち玄米（主食用）	14,800円/60kg（247円/kg）

資料：㈱加工用米取引センターHP

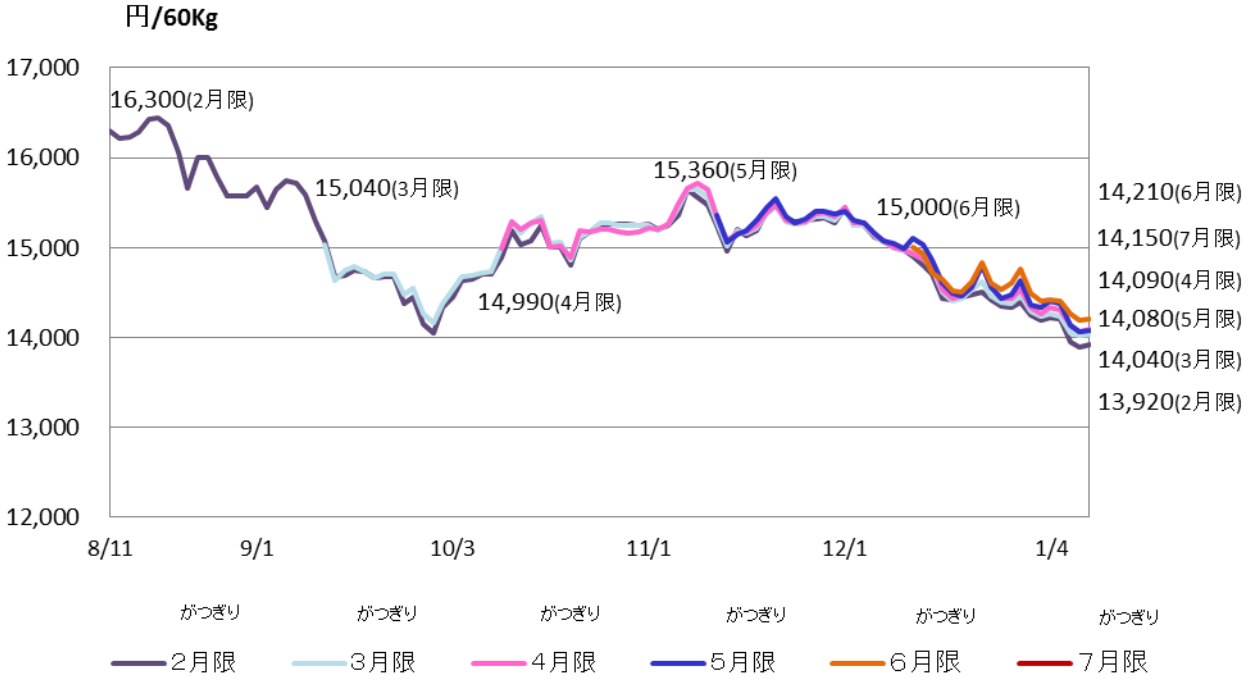
（６）米の先物取引価格の推移

①東京穀物商品取引所



出典：東京穀物商品取引所
注：1月11日日中取引終了までの価格の推移である。

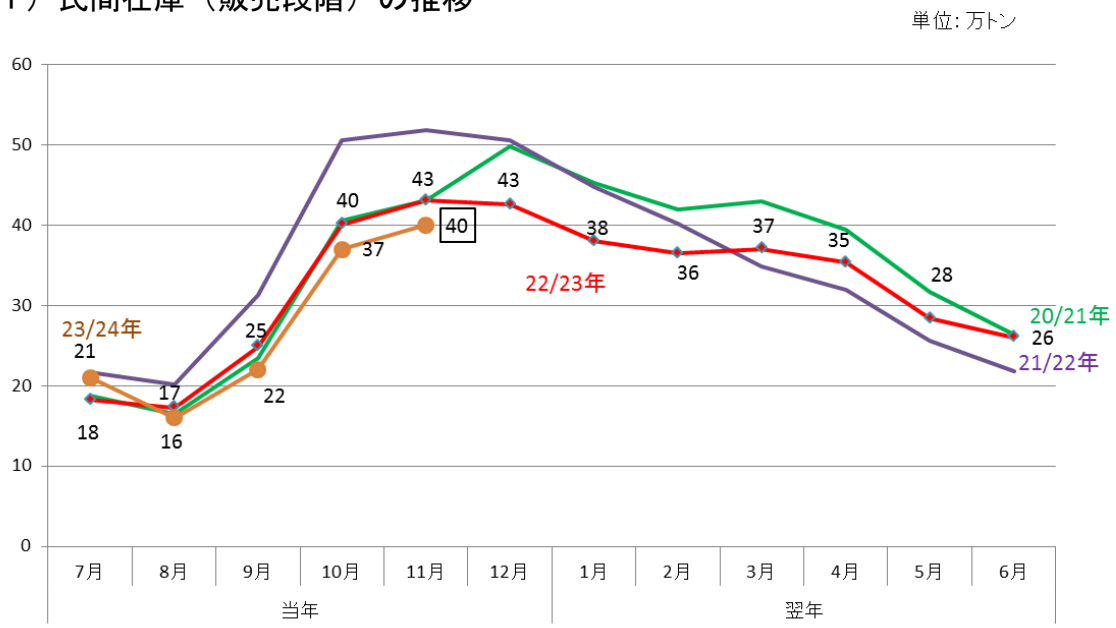
②関西商品取引所



出典：関西商品取引所
注：1月11日後場第3節までの価格の推移である。

２．卸売段階の動向

（１）民間在庫（販売段階）の推移



（単位：万トン）

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	平均
20/21年	19	17	23	41	43	50	45	42	43	39	32	26	35
21/22年	22	20	31	51	52	51	45	40	35	32	26	22	35
対前年差	+3	+4	+8	+10	+9	+1	▲0	▲2	▲8	▲7	▲6	▲5	+0
22/23年	18	17	25	40	43	43	38	36	37	35	28	26	32
対前年差	▲3	▲3	▲6	▲11	▲9	▲8	▲7	▲4	+2	+3	+3	+4	▲3
23/24年	21	16	22	37	40								27
対前年差	+3	▲1	▲3	▲3	▲3								▲5

資料：農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」（～20年７月）
　　農林水産省「米穀の取引に関する報告」（20年８月～）
注１：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米の月末在庫量（玄米換算）の値である。
　２：米穀の販売の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が4,000トン以上の者の値である。
　３：期間については、22/23年であれば、22年７月～23年６月である。
　４：22/23年７月以降の値は、速報値である。
　５：23年３月以降の値は、東日本大震災の影響により一部見込みが含まれている。
　６：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

（２）業者間取引の状況

①　日本コメ市場（随時取引の結果）

○　価格は、主にスポット取引の価格であり、相当期間にわたり安定的に行う取引の価格とは性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。

関東到着基準、1等、包装代込、税抜き、円/60kg

年産・産地銘柄		9月下期	10月上期	10月下期	11月上期	11月下期	12月上期	12月下期
23年産	北海道きらら397	－	－	13,903	13,992	－	14,000	－
23年産	青森つがるロマン	13,461	13,825	13,678	13,835	13,884	－	－
23年産	秋田あきたこまち	15,333	15,096	15,233	15,437	15,294	15,427	15,466
23年産	宮城ひとめぼれ	－	－	－	－	－	－	14,320
23年産	福島中通りコシヒカリ	－	－	－	14,262	－	－	－
23年産	茨城コシヒカリ	14,658	－	14,878	－	－	－	14,873
23年産	栃木コシヒカリ	14,545	14,725	14,803	14,857	－	14,931	－
23年産	新潟コシヒカリ	17,597	17,941	18,021	18,614	－	－	－

出典：日本コメ市場株式会社HP
注1：随時取引とは、取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引である。
　2：上記価格は、日本コメ市場㈱の取引における成約価格を取引数量により加重平均したものである。
　3：上期は、1日から15日まで、下期は、16日から月末までを示す。
　4：「－」に関しては、成約数量が日本コメ市場の内部規程で定める基準を満たさなかったため非公表。

②　日本コメ市場・クリスタルライス（取引会の結果）
（主たる銘柄の成約状況）

（単位：円/俵、トン）

年産・産地銘柄		平成23年度									
		第1回 5月12日		第2回 7月14日		第3回 9月8日		第4回 10月13日		第5回 12月8日	
		成約価格	(成約数量)	成約価格	(成約数量)	成約価格	(成約数量)	成約価格	(成約数量)	成約価格	(成約数量)
22年産	青森まっしぐら	13,010	(60)	15,736	(35)	－	－	－	－	－	－
22年産	宮城ササニシキ	－	－	15,000	(60)	－	－	－	－	－	－
22年産	秋田あきたこまち	17,180	(65)	19,600	(12)	－	－	－	－	－	－
22年産	福島ひとめぼれ	14,166	(27)	－	－	－	－	－	－	－	－
22年産	福島コシヒカリ（中通り）	17,644	(29)	－	－	－	－	－	－	－	－
22年産	茨城コシヒカリ	17,089	(56)	17,350	(24)	－	－	－	－	－	－
23年産	北海道ななつぼし	－	－	－	－	－	－	13,871	(161)	－	－
23年産	宮城ひとめぼれ	－	－	－	－	－	－	－	－	14,394	(85)
23年産	秋田あきたこまち	－	－	－	－	－	－	15,159	(75)	15,375	(136)
23年産	山形はえぬき	－	－	－	－	－	－	－	－	14,494	(190)
23年産	茨城コシヒカリ	－	－	－	－	14,700	(50)	14,807	(63)	15,070	(167)
23年産	茨城あきたこまち	－	－	－	－	14,050	(60)	－	－	－	－
23年産	千葉コシヒカリ	－	－	－	－	－	－	－	－	15,293	(180)
23年産	千葉ふさおとめ	－	－	－	－	14,100	(37)	－	－	－	－
23年産	千葉ふさこがね	－	－	－	－	－	－	14,238	(109)	－	－
23年産	新潟一般コシヒカリ	－	－	－	－	－	－	17,949	(44)	－	－
23年産	福井ハナエチゼン	－	－	－	－	14,813	(50)	－	－	－	－
成約米穀の平均価格（加重平均）		14,777	(1,087)	16,072	(433)	14,379	(404)	14,536	1,039	14,950	(1,240)

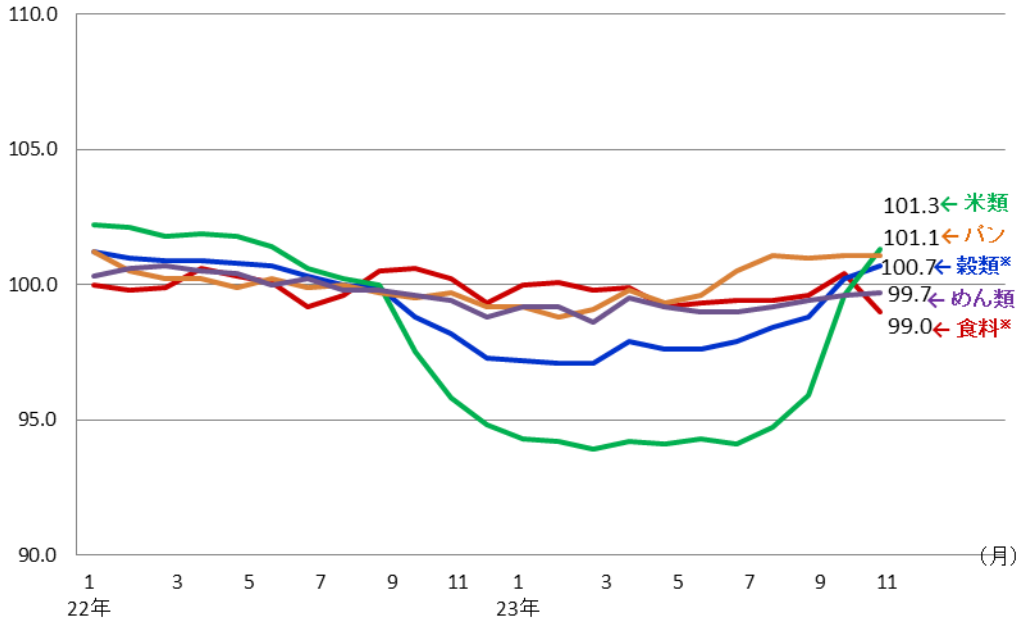
出典：日本コメ市場株式会社のHP
注１：取引会における取引は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において開催される取引会において入札により行われるものである。
　2：価格は、1等、包装代（紙袋）含む関東着基準であり、取引における成約価格を取引数量により加重平均したものである。
　3：「－」は、同社のホームページにおいて未掲載を示す。

３．小売・消費段階の動向

（1） 小売価格・消費者物価の推移

① 消費者物価指数の推移

（図）消費者物価指数の推移



注1：図中の実線は、平成22年を100とした数値となる。
　2：図中の数値は、平成23年11月の消費者物価指数となる。
　3：図中の食料とは穀類、魚介類、肉類等を、穀類とは米類、パン、めん類、他の穀類をいう。

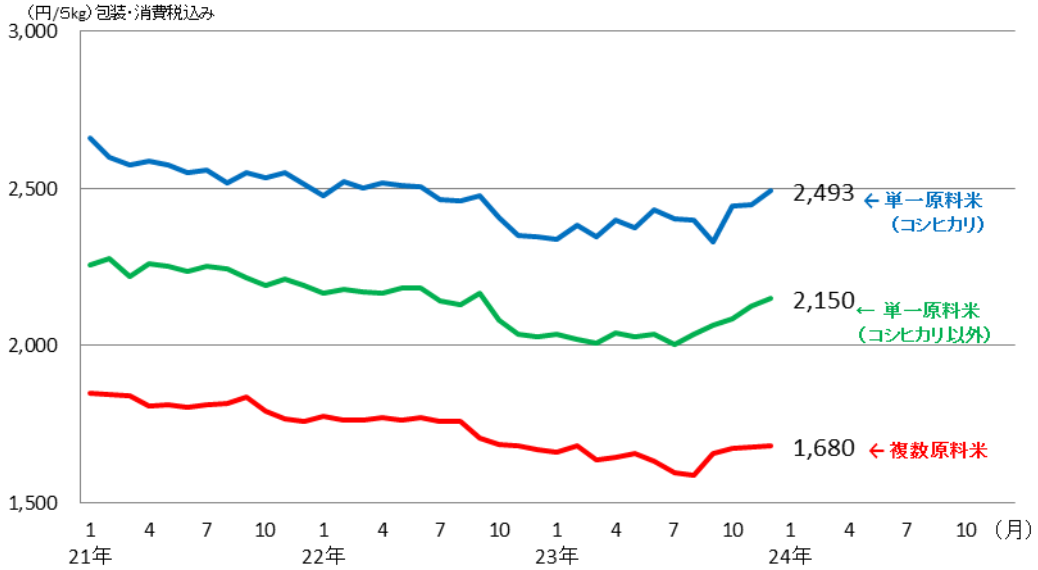
（表）消費者物価指数の推移（対前年同月比）

	食料	対前年同月比	穀類	対前年同月比	米類	対前年同月比	うるち米	対前年同月比	パン	対前年同月比	めん類	対前年同月比
平成17年	96.8	▲0.9%	98.5	▲6.6%	109.8	▲13.3%	109.8	▲12.9%	91.6	▲1.1%	91.2	▲0.9%
平成18年	97.3	0.5%	96.8	▲1.7%	106.4	▲3.1%	106.5	▲3.0%	91.5	▲0.1%	90.1	▲1.2%
平成19年	97.6	0.3%	96.4	▲0.4%	104.5	▲1.8%	104.7	▲1.7%	92.1	0.7%	89.7	▲0.4%
平成20年	100.1	2.6%	102.6	6.4%	103.2	▲1.2%	103.4	▲1.2%	103.8	12.7%	100.2	11.7%
平成21年	100.3	0.2%	103.3	0.7%	103.6	0.4%	103.6	0.2%	104.0	0.2%	101.9	1.7%
平成22年1月	100.0	▲1.5%	101.2	▲3.4%	102.2	▲2.3%	102.3	▲2.3%	101.2	▲5.6%	100.3	▲2.4%
2月	99.8	▲0.9%	101.0	▲3.7%	102.1	▲2.5%	102.1	▲2.6%	100.5	▲6.0%	100.6	▲2.0%
3月	99.9	▲1.1%	100.9	▲4.0%	101.8	▲2.7%	101.8	▲2.8%	100.2	▲6.4%	100.7	▲2.3%
4月	100.6	▲0.3%	100.9	▲3.4%	101.9	▲2.1%	101.9	▲2.1%	100.2	▲5.2%	100.5	▲2.0%
5月	100.3	▲0.7%	100.8	▲2.7%	101.8	▲2.1%	101.8	▲2.1%	99.9	▲3.8%	100.4	▲2.0%
6月	100.1	▲0.4%	100.7	▲2.5%	101.4	▲2.2%	101.5	▲2.1%	100.2	▲3.2%	100.0	▲2.1%
7月	99.2	▲0.6%	100.3	▲2.7%	100.6	▲2.8%	100.6	▲2.8%	99.9	▲3.2%	100.2	▲1.7%
8月	99.6	▲1.3%	100.0	▲2.7%	100.2	▲3.1%	100.2	▲3.1%	100.0	▲2.6%	99.8	▲1.8%
9月	100.5	▲0.2%	99.9	▲2.8%	100.0	▲3.3%	100.0	▲3.3%	99.7	▲2.7%	99.8	▲1.9%
10月	100.6	1.0%	98.8	▲3.3%	97.5	▲5.1%	97.4	▲5.2%	99.5	▲2.6%	99.6	▲1.7%
11月	100.2	1.4%	98.2	▲3.4%	95.8	▲6.5%	95.6	▲6.7%	99.7	▲1.9%	99.4	▲1.1%
12月	99.3	0.7%	97.3	▲3.9%	94.8	▲7.1%	94.7	▲7.3%	99.2	▲2.3%	98.8	▲1.4%
平成23年1月	100.0	0.0%	97.2	▲4.0%	94.3	▲7.7%	94.3	▲7.8%	99.2	▲2.0%	99.2	▲1.1%
2月	100.1	0.3%	97.1	▲3.9%	94.2	▲7.7%	94.0	▲7.9%	98.8	▲1.7%	99.2	▲1.4%
3月	99.8	▲0.1%	97.1	▲3.8%	93.9	▲7.8%	93.8	▲7.9%	99.1	▲1.1%	98.6	▲2.1%
4月	99.9	▲0.7%	97.9	▲3.0%	94.2	▲7.6%	94.1	▲7.7%	99.8	▲0.4%	99.5	▲1.0%
5月	99.2	▲1.1%	97.6	▲3.2%	94.1	▲7.6%	93.9	▲7.8%	99.3	▲0.6%	99.2	▲1.2%
6月	99.3	▲0.8%	97.6	▲3.1%	94.3	▲7.0%	94.1	▲7.3%	99.6	▲0.6%	99.0	▲1.0%
7月	99.4	0.2%	97.9	▲2.4%	94.1	▲6.5%	94.0	▲6.6%	100.5	0.6%	99.0	▲1.2%
8月	99.4	▲0.2%	98.4	▲1.6%	94.7	▲5.5%	94.6	▲5.6%	101.1	1.1%	99.2	▲0.6%
9月	99.6	▲0.9%	98.8	▲1.1%	95.9	▲4.1%	95.8	▲4.2%	101.0	1.3%	99.4	▲0.4%
10月	100.4	▲0.2%	100.2	1.4%	99.6	2.2%	99.7	2.4%	101.1	1.6%	99.6	0.0%
11月	99.0	▲1.2%	100.7	2.5%	101.3	5.7%	101.5	6.2%	101.1	1.4%	99.7	0.3%

資料：総務省「消費者物価指数」（平成22年基準）
注1：表中の数値は、平成22年を100として指数化したものである。
　2：食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。
　3：穀類は、米類（うるち米、もち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。
　4：平成17年から平成21年のデータは年平均、平成22年以降は月次データを用いている。

②　小売物価統計による推移

（図）小売物価統計による推移



（表）小売物価統計による推移

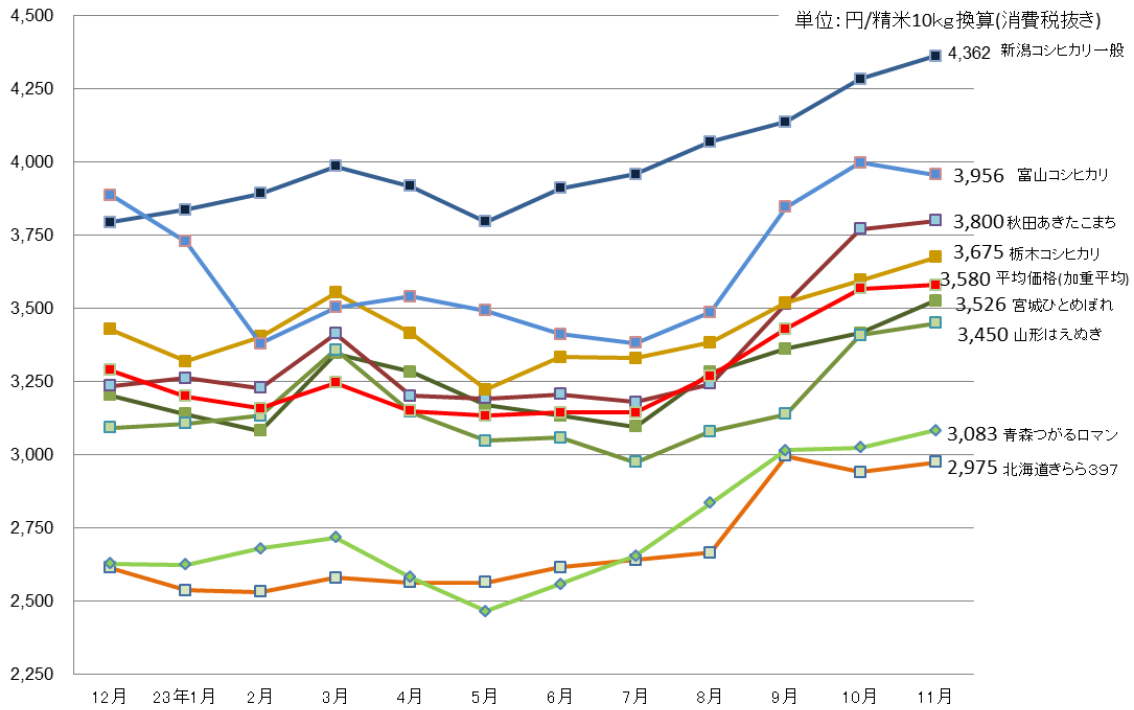
（単位：円/5kg　包装・消費税込み）

	うるち米		
	単一原料米（コシヒカリ）	単一原料米（コシヒカリ以外）	複数原料米
平成17年	2,804	2,375	2,040
平成18年	2,744	2,341	1,996
平成19年	2,670	2,288	1,950
平成20年	2,610	2,270	1,832
平成21年	2,531	2,201	1,812
平成22年1月	2,479	2,166	1,775
2月	2,522	2,178	1,763
3月	2,503	2,173	1,763
4月	2,519	2,167	1,770
5月	2,508	2,185	1,763
6月	2,506	2,183	1,773
7月	2,465	2,141	1,758
8月	2,463	2,130	1,758
9月	2,478	2,167	1,704
10月	2,409	2,082	1,684
11月	2,350	2,037	1,682
12月	2,347	2,027	1,669
平成23年1月	2,338	2,038	1,662
2月	2,382	2,020	1,683
3月	2,347	2,006	1,636
4月	2,399	2,039	1,646
5月	2,375	2,029	1,658
6月	2,432	2,035	1,633
7月	2,405	2,003	1,594
8月	2,399	2,038	1,587
9月	2,330	2,067	1,658
10月	2,445	2,086	1,673
11月	2,448	2,128	1,677
12月	2,493	2,150	1,680

資料：総務省「小売物価統計」
注１：東京都区部の数値である。
　２：特売を除いた価格である。
　３：精米ベースである。

③　小売価格の推移（ＰＯＳデータ）

（図）小売価格の推移



（表）小売価格の推移

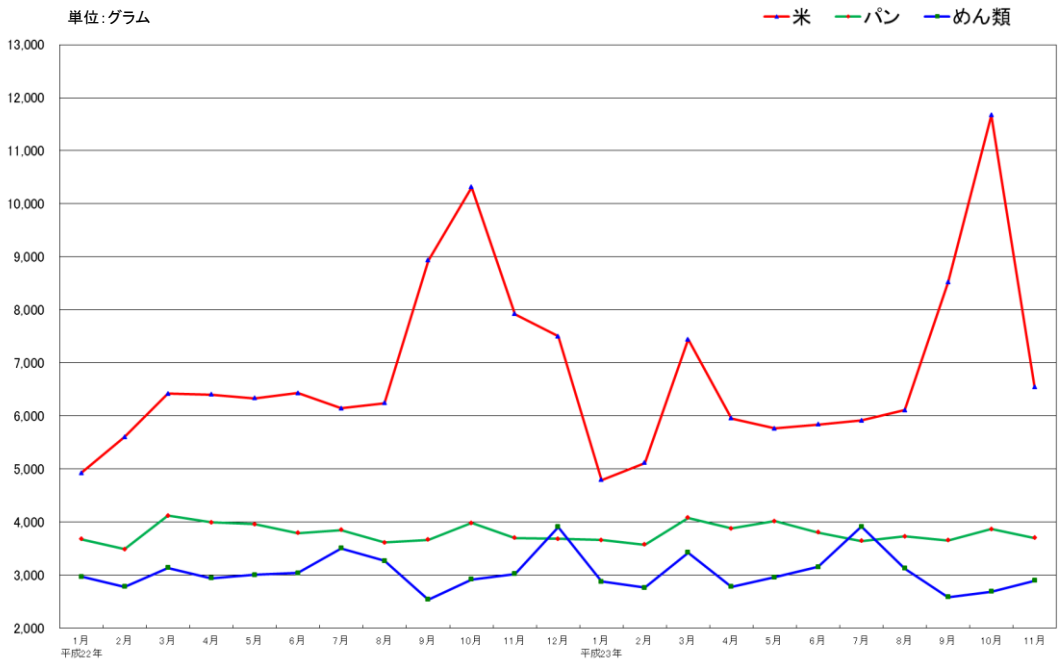
単位：円/精米10kg換算（消費税抜き）

	品種銘柄								
	北海道 きらら397	青森 つがるロマン	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	栃木 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	富山 コシヒカリ	全POS取引 平均価格
22年12月	2,614	2,627	3,202	3,236	3,092	3,428	3,794	3,886	3,289
23年1月	2,537	2,624	3,138	3,261	3,106	3,319	3,837	3,727	3,199
2月	2,531	2,680	3,082	3,228	3,133	3,403	3,893	3,379	3,159
3月	2,580	2,717	3,346	3,414	3,359	3,553	3,985	3,503	3,246
4月	2,564	2,582	3,284	3,201	3,145	3,416	3,918	3,540	3,149
5月	2,564	2,465	3,169	3,192	3,048	3,222	3,796	3,492	3,134
6月	2,615	2,559	3,133	3,206	3,059	3,334	3,910	3,412	3,144
7月	2,640	2,655	3,095	3,180	2,974	3,329	3,959	3,382	3,145
8月	2,666	2,836	3,281	3,242	3,079	3,383	4,070	3,487	3,269
9月	2,996	3,016	3,362	3,516	3,138	3,519	4,136	3,845	3,430
10月	2,941	3,025	3,415	3,770	3,408	3,595	4,283	3,997	3,568
11月	2,975	3,083	3,526	3,800	3,450	3,675	4,362	3,956	3,580

資料：㈱KSP－SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成
注１：㈱KSP－SPが提供するPOSデータは、全国約800店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。
２：POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。
３：POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。
４：平均価格（加重平均）は、POSデータで把握できる全ての精米の小売価格について加重平均を行った価格である。

（2） 購入数量の推移（家計調査）

（図）購入数量の推移



（表）購入数量の推移

（単位：グラム）

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年同月比	購入数量	対前年同月比	購入数量	対前年同月比
平成20年	88,550	103.8%	44,445	98.2%	35,899	101.2%
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年1月	4,920	98.0%	3,673	104.3%	2,966	103.9%
2月	5,600	100.2%	3,484	99.7%	2,778	103.3%
3月	6,420	101.3%	4,119	102.2%	3,135	100.4%
4月	6,400	96.7%	3,989	101.1%	2,937	103.0%
5月	6,330	101.8%	3,954	96.6%	3,000	94.2%
6月	6,430	106.1%	3,790	99.1%	3,038	98.8%
7月	6,140	95.8%	3,850	100.1%	3,503	101.3%
8月	6,240	94.4%	3,612	96.2%	3,268	104.6%
9月	8,930	91.6%	3,663	94.4%	2,534	100.2%
10月	10,310	91.7%	3,979	101.0%	2,914	101.2%
11月	7,920	98.5%	3,700	99.0%	3,020	100.9%
12月	7,500	104.9%	3,680	103.1%	3,906	104.4%
平成23年1月	4,790	97.4%	3,656	99.5%	2,875	96.9%
2月	5,110	91.3%	3,573	102.6%	2,763	99.5%
3月	7,440	115.9%	4,076	99.0%	3,424	109.2%
4月	5,950	93.0%	3,878	97.2%	2,776	94.5%
5月	5,760	91.0%	4,015	101.5%	2,958	98.6%
6月	5,840	90.8%	3,804	100.4%	3,149	103.7%
7月	5,910	96.3%	3,640	94.5%	3,911	111.6%
8月	6,110	97.9%	3,724	103.1%	3,122	95.5%
9月	8,520	95.4%	3,653	99.7%	2,583	101.9%
10月	11,670	113.2%	3,866	97.2%	2,686	92.2%
11月	6,540	82.6%	3,700	100.0%	2,893	95.8%

資料：総務省「家計調査」
注1：二人以上の世帯の数値である。
2：平成20年及び平成21年については、年間の購入数量を示す。
3：精米ベースである。

（３） 米の消費動向（米穀機構による調査：平成23年４月分調査から実施）

○ 本調査は、調査実施機関（(株)マクロミル）のモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

① １人１ヵ月当たり精米消費量の推移

（上段:対前月比、下段:実数(精米g/人)）

	平成23年4月（暫定値）	内訳	平成23年5月（暫定値）	内訳	平成23年6月	内訳	平成23年7月	内訳	平成23年8月	内訳	平成23年9月	内訳	平成23年10月	内訳	平成23年11月	内訳
合計	-		▲6.0%		▲1.2%		▲7.2%		+0.2%		+3.1%		▲1.2%		+1.5%	
	(5,434)	(100.0%)	(5,106)	(100.0%)	5,045	(100.0%)	4,681	(100.0%)	4,692	(100.0%)	4,839	(100.0%)	4,783	(100.0%)	4,856	(100.0%)
家庭内	-		▲4.5%		0.9%		▲10.5%		+0.3%		+5.9%		▲0.2%		+0.7%	
	(3,536)	(65.1%)	(3,377)	(66.1%)	3,406	(67.5%)	3,047	(65.1%)	3,055	(65.1%)	3,236	(66.9%)	3,229	(67.5%)	3,251	(66.9%)
中・外食	-		▲8.9%		▲5.2%		▲0.2%		+0.1%		▲2.1%		▲3.1%		+3.3%	
	(1,898)	(34.9%)	(1,729)	(33.9%)	1,639	(32.5%)	1,635	(34.9%)	1,637	(34.9%)	1,603	(33.1%)	1,554	(32.5%)	1,605	(33.1%)
中食	-		▲9.6%		▲8.5%		▲4.2%		+0.3%		▲0.8%		▲1.9%		+1.2%	
	(1,152)	(21.2%)	(1,041)	(20.4%)	953	(18.9%)	913	(19.5%)	916	(19.5%)	909	(18.8%)	892	(18.6%)	903	(18.6%)
外食	-		▲7.8%		▲0.3%		+5.2%		▲0.3%		▲3.8%		▲4.5%		+6.0%	
	(746)	(13.7%)	(688)	(13.5%)	686	(13.6%)	722	(15.4%)	720	(15.4%)	693	(14.3%)	662	(13.8%)	702	(14.5%)

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」
注１：平成23年４月分及び５月分の調査は、東日本大震災のため東北６県及び茨城県を調査対象外としているため、暫定値として公表。
２：平成23年６月分の調査から東北６県及び茨城県が調査対象に含まれており、11月分の有効調査世帯数は1,262。
３：家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握。家庭外消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯類の概量から推計。
４：集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成17年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。
５：ラウンドの関係で合計と内訳が合わない場合がある。

② 精米購入時の動向

（ア） 入手経路（複数回答）

（%）

	デパート	スーパーマーケット	ドラッグストア	ディスカウントストア	コンビニエンスストア	生協（店舗・共同購入含む）	農協（店舗・共同購入含む）	米穀専門店	産地直売所	生産者から直接購入	インターネットショップ	家族・知人などから無償で入手	その他
平成23年4月（暫定値）	0.5	51.6	2.4	5.1	0.0	8.1	1.7	4.4	1.8	5.2	5.4	19.2	1.6
平成23年5月（暫定値）	1.3	44.6	3.9	4.3	0.3	8.4	1.2	4.6	1.4	6.4	5.5	24.4	2.9
平成23年6月	1.7	45.5	3.7	5.4	0.3	8.4	2.0	4.0	0.9	5.6	6.6	20.7	2.3
平成23年7月	1.1	43.6	3.5	4.2	0.4	10.4	1.3	3.8	1.2	7.9	5.6	22.4	2.2
平成23年8月	0.8	46.1	4.0	4.8	0.7	10.0	1.1	3.3	1.4	6.0	6.3	22.1	2.1
平成23年9月	0.2	48.3	3.1	3.7	0.2	8.7	1.2	3.5	1.4	7.2	6.2	22.7	2.1
平成23年10月	0.5	44.5	4.5	2.6	0.4	8.8	1.1	3.5	2.0	7.5	4.6	29.6	2.3
平成23年11月	0.0	43.6	2.9	4.4	0.6	7.7	0.9	4.2	1.3	7.3	6.9	28.4	2.6

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」
注：上記データの留意点については、①の注釈を参照。

（イ） 重視する点（複数回答）

（%）

	産地	品種	年産	価格	食味（おいしさ）	適量感	安全性	精米年月日	栽培方法	製造販売事業者	販売店	その他
平成23年4月（暫定値）	42.6	53.6	31.9	76.0	47.1	8.4	25.4	28.2	6.4	7.2	4.2	7.8
平成23年5月（暫定値）	45.9	52.4	32.7	77.0	48.3	7.2	27.9	27.3	4.7	6.9	3.3	5.3
平成23年6月	44.0	53.7	34.6	78.3	50.6	7.6	24.7	28.5	4.7	7.9	4.0	4.8
平成23年7月	48.0	52.2	33.3	79.6	49.7	8.5	28.4	28.1	4.3	6.6	4.3	3.4
平成23年8月	50.9	51.2	34.8	78.4	47.8	10.3	31.4	25.8	4.4	6.7	4.1	4.8
平成23年9月	47.9	50.2	35.9	78.0	48.0	8.0	32.0	25.1	3.5	7.5	4.7	4.7
平成23年10月	53.5	52.2	37.1	77.5	49.5	10.2	32.5	25.6	4.5	6.8	3.8	4.5
平成23年11月	53.4	50.7	40.9	77.7	49.9	9.2	35.6	26.6	4.3	8.9	4.1	5.2

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」
注：上記データの留意点については、①の注釈を参照。

４．生産段階の動向

（１） 国産米の作況・収穫量

年産	作付面積（子実用） ha	10a当たり収量 kg	収穫量（子実用） t	（参考）主食用作付面積 ha	（参考）収穫量（主食用） t	（参考）10a当たり平年収量 kg	（参考）生産数量目標 t	作況指数
18	1 684 000	507	8 546 000	…	…	529	8 330 983	96
19	1 669 000	522	8 705 000	…	…	529	8 284 755	99
20	1 624 000	543	8 815 000	1 596 000	8 658 000	530	8 149 720	102
21	1 621 000	522	8 466 000	1 592 000	8 309 000	530	8 150 020	98
22	1 625 000	522	8 478 000	1 580 000	8 239 000	530	8 129 990	98

出典：農林水産省「平成22年産水陸稲の収穫量」
注1：作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。
2：主食用作付面積とは、水稲作付面積(青刈り面積を含む。)から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積である。
3：「…」は、事実不詳又は調査を欠くものであることを示す。

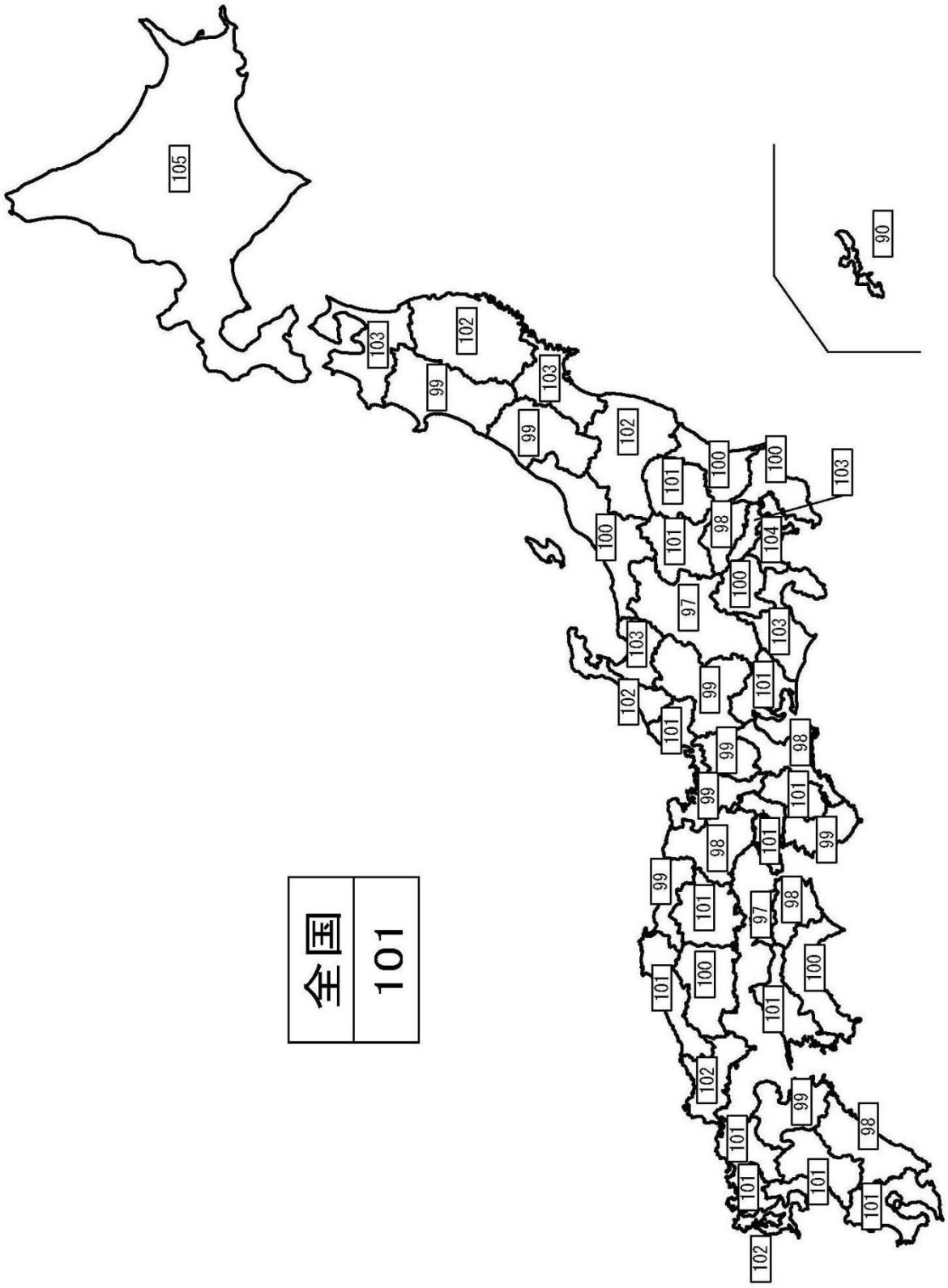
（２） 平成23年産水陸稲の収穫量

① 平成23年産水陸稲の収穫量(全国農業地域別)

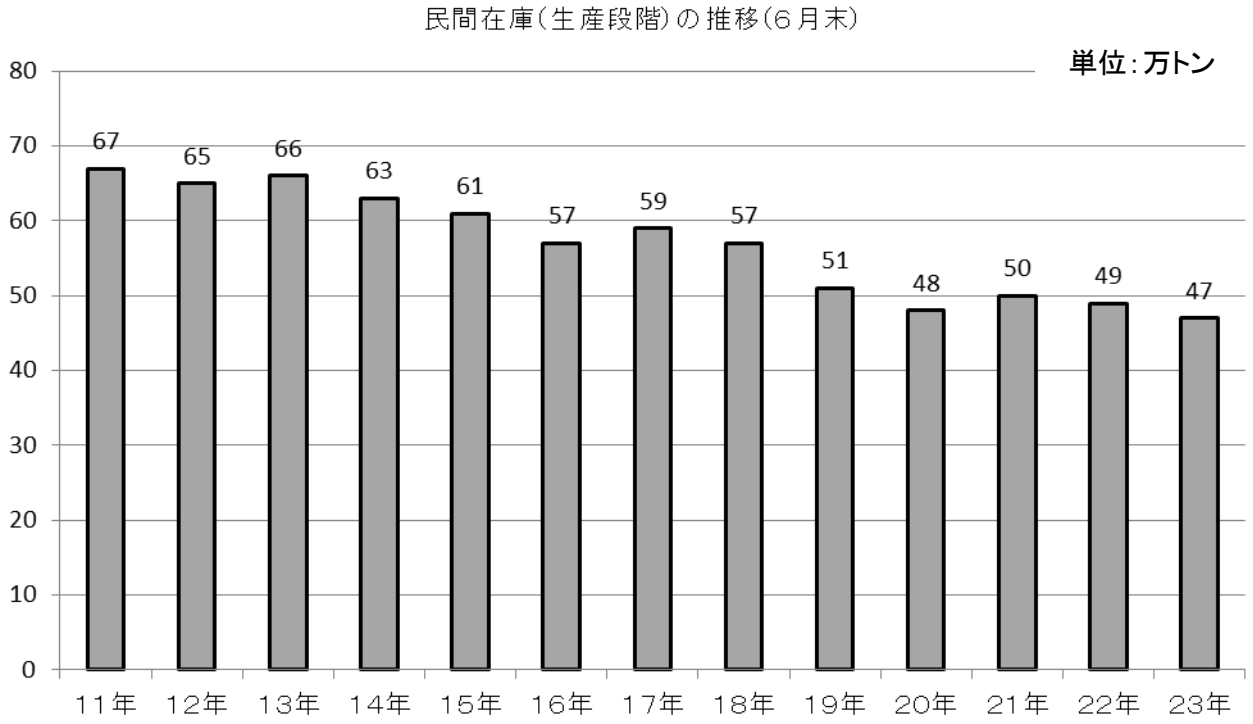
全国農業地域	水陸稲計 作付面積（子実用） ha	水陸稲計 収穫量（子実用） t	水稲 作付面積（子実用）① ha	水稲 10ａ当たり収量 ② kg	水稲 収穫量（子実用）③＝①×② t	参考 主食用作付面積 ④ ha	参考 収穫量（主食用）⑤＝④×② t	参考 10ａ当たり平年収量 ⑥ kg	作況指数 ⑦＝②／⑥
全国	1,576,000	8,402,000	1,574,000	533	8,397,000	1,526,000	8,133,000	530	101
北海道	112,900	634,500	112,900	562	634,500	109,100	613,100	535	105
東北	389,000	2,199,000	389,000	565	2,199,000	370,900	2,096,000	558	101
北陸	208,800	1,122,000	208,800	537	1,122,000	195,500	1,050,000	533	101
関東・東山	298,000	1,582,000	295,600	533	1,577,000	289,700	1,546,000	535	100
東海	102,400	514,400	102,400	502	514,400	101,500	510,400	503	100
近畿	109,300	551,200	109,300	504	551,200	107,700	542,800	509	99
中国	115,100	600,400	115,100	522	600,400	113,200	590,500	517	101
四国	56,200	268,600	56,200	478	268,600	55,900	267,100	484	99
九州	183,500	927,000	183,500	505	927,000	181,300	915,400	503	100
沖縄	921	2,550	921	277	2,550	921	2,550	309	90

出典：農林水産省「農林水産統計」
注1：作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。
2：主食用作付見込面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積（見込み）である。
3：収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については都道府県ごとの積み上げ値であるため、表頭の計 算は一致しない場合がある。

② 全国･都道府県別作況指数



（３） 民間在庫（生産段階）の推移



資料：農林水産省「生産者の米穀在庫等調査」
注：「生産者の米穀現在高等調査」（平成22年以降は「生産者の米穀在庫等調査」）を基に算出(精米在庫量を除く玄米在庫量)。

（４） 水稲うるち玄米の検査結果

（単位：トン、％）

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
17	5,047,547	3,788,571	1,000,515	168,455	90,006	75.1	19.8	3.3	1.8
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	3,927,894	3,201,941	631,802	49,110	45,041	81.5	16.1	1.3	1.1

資料：農林水産省とりまとめ
注1：「一等比率」とは、農産物検査法に基づく検査の結果、一等に格付けされた割合である。
2：23年産については、平成23年11月30日現在（速報値）

（５）加工用米及び新規需要米の取組状況

①　加工用米の生産量

単位:トン

	うるち米	もち米	合計
平成16年産	117,837	4,404	122,241
平成17年産	123,996	4,738	128,734
平成18年産	140,596	7,996	148,592
平成19年産	152,145	10,659	162,804
平成20年産	138,895	10,154	149,048
平成21年産	134,389	6,779	141,168
平成22年産	190,883	21,945	212,829
平成23年産	122,741	32,233	154,973

資料: 農林水産省「加工用米生産量」
注1: 四捨五入の関係で個々の数字の積み上げと合計が一致しない場合がある。
　2: 平成23年産については、10月15日現在。

②　新規需要米の用途別認定状況

用途区分	平成20年産		平成21年産		平成22年産			平成23年産	
	認定数量(トン)	認定面積(ha)	認定数量(トン)	認定面積(ha)	認定数量(トン)	認定面積(ha)	生産量(トン)	認定数量(トン)	認定面積(ha)
米粉用米	566	108	13,041	2,401	27,796	4,957	24,639	40,311	7,324
飼料用米	8,020	1,410	23,264	4,123	81,237	14,883	68,011	183,033	33,955
ＷＣＳ用稲（稲発酵粗飼料用稲）	―	9,089	―	10,203	―	15,939	―	―	23,086
バイオエタノール用米	2,426	303	2,314	295	2,940	397	2,488	2,998	415
輸出用米	391	74	926	164	2,184	388	1,959	1,626	287
その他（わら専用稲、青刈り用稲等）	982	1,330	1,108	956	694	508	535	852	501
合計	12,386	12,314	40,654	18,142	114,851	37,072	97,632	228,820	65,569

資料: 農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」
注1:WCS用稲、わら専用、青刈り用稲については子実を採らない用途であるため認定数量及び生産量はなし。
2: 四捨五入の関係で個々の数字の積み上げと合計が一致しない場合がある。
3:「その他」の取組には、主食用以外の用途のための種子等、その用途が主食用米の需給に影響を及ぼさないものの取組が含まれる。
4:生産量については平成22年産から徴収したものであり、実際の流通量と一致（見込み含む）。
5:平成23年産については10月15日現在。

５．備蓄米及びMA米の動向

（１）国内産備蓄米の売買数量及び在庫数量

①　23年産米の政府備蓄米買入入札数量（都道府県別契約数量）

単位:トン

産地	配分優先枠	優先枠入札の結果		一般枠入札の結果		合計数量	
北海道	7,000		7,000		856		7,856
青森	―				2,400		2,400
岩手	6,700		5,683				5,683
宮城	5,900	(5,700)	0			(5,700)	0
秋田	11,300		11,274		1,959		13,233
山形	3,900		3,900		3,789		7,689
福島	―			(1,200)	120	(1,200)	120
茨城	―				90		90
栃木	―				2,496		2,496
千葉	―				100		100
東京	100						0
新潟	―				10,122		10,122
富山	6,200		6,200		1,721		7,921
石川	―				1,120		1,120
福井	―				2,434		2,434
長野	―				102		102
三重	―				697		697
滋賀	1,200						0
岡山	―				183		183
広島	2,100		1,017				1,017
山口	5,100		3,003				3,003
香川	1,300		585				585
愛媛	1,000		422				422
福岡	1,300		120				120
佐賀	5,700		188				188
熊本	500				57		57
大分	300						0
宮崎	500						0
鹿児島	700						0
合計	60,800	(5,700)	39,392	(1,200)	28,246	(6,900)	67,638

注:（　）内の数値は、震災により契約解除となったものである。

②　国内産備蓄米の売渡数量

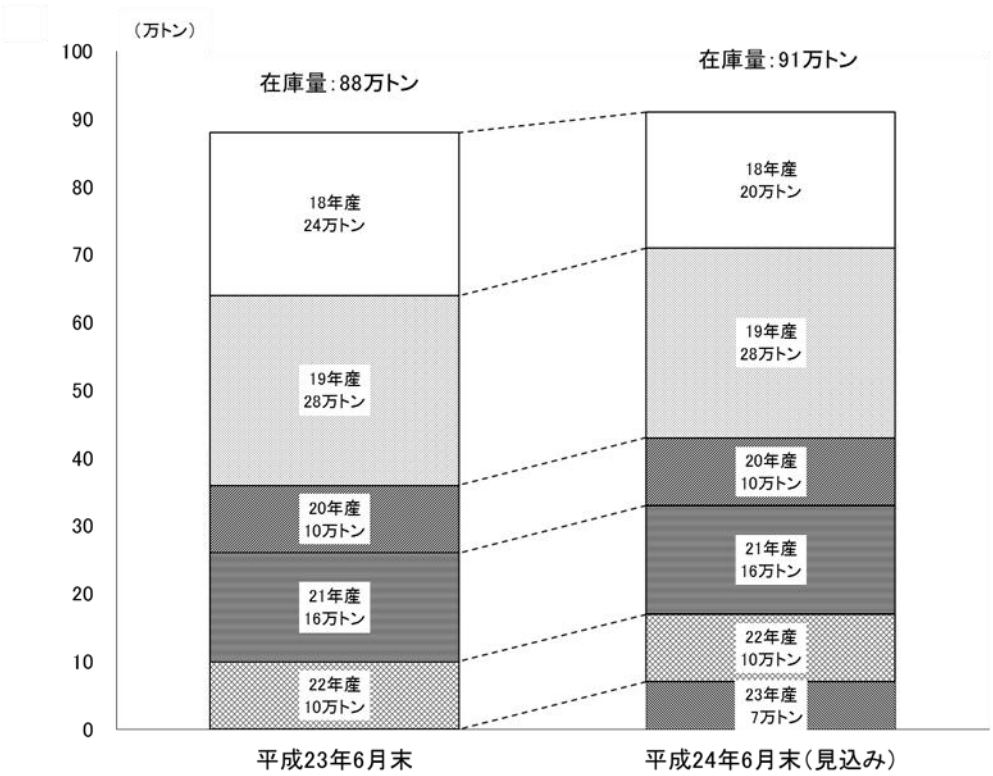
最近における政府備蓄米（主食用）の販売状況

（単位：千トン）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
19/20年	17	24	20	21	20	7	0	1	0	1	0	6	117
20/21年	26	34	15	14	16	17	13	13	13	14	10	11	196
21/22年	6	4	4	3	3	2	1	2	2	1	2	1	31
22/23年	1	1	1	0	0	0	0	0	―	―	―	―	3

資料：農林水産省「最近における政府備蓄米（主食用）の販売状況」
注１：期間については、22/23年であれば、平成22年7月～23年6月である。
　２：販売数量は実際に卸売業者等が引き取った実績であり、契約数量とは異なる。
　３：19/20年の11月・12月については緊急対策による販売停止以前に契約された分の引取数量であり、1～5月については矯正施設向けに販売し、引き取られた数量である。
　４：平成23年1月をもって、政府所有国内産米穀（主食用）の販売入札（2月引取分まで）を終了している。

③　政府備蓄米の在庫の状況（平成23年6月末現在）



資料：農林水産省調べ
注１：うるち玄米の数量である。
　２：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

（２） ＭＡ米（一般・ＳＢＳ）の動向

① ＭＡ米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：万玄米トン）

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
米国	19	23	29	32	34	36	36	36	36
タイ	11	14	15	15	16	17	15	15	15
中国	3	4	5	8	9	10	14	11	11
オーストラリア	9	9	9	11	11	12	11	10	9
その他	1	1	2	2	2	2	1	5	5
合計	43	51	60	68	72	77	77	77	76
（うち一般輸入）	42	49	54	55	59	63	66	71	65
（うちSBS輸入）※	1	2	6	12	12	12	10	5	10

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度（12月末現在）
米国	36	36	36	36	43	36	36	26
タイ	19	19	18	25	27	33	35	16
中国	10	9	8	8	7	7	2	5
オーストラリア	2	2	5	－	－	－	4	3
その他	10	11	10	1	0	1	0	1
合計	77	77	77	70	77	77	77	51
（うち一般輸入）	66	66	66	59	66	66	72	43
（うちSBS輸入）※	9	10	10	10	10	10	4	8

資料：農林水産省「ミニマム・アクセス米をめぐる状況」
　　※ＳＢＳ輸入数量の単位は万実トン。
注１：各年度の輸入契約数量の推移。なお、平成23年度については、入札結果を含んだ数値である。
　２：実トンと玄米トンのため合計は一致しないことがある。
（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

② 一般輸入米（加工原材料用）の販売状況(平成23年度)

（単位：トン）

	うるち	もち
4～6月分 （平成23年3月11日、16日及び22日実施分）	18,286	1,342
4月分 （平成23年3月11日、16日及び22日実施分）	1,118	173
5月分 （平成23年4月13日、19日実施分）	1,483	236
6月分 （平成23年5月13日、20日実施分）	2,301	165
7～9月分 （平成23年6月10日、16日及び22日実施分）	19,372	729
7月分 （平成23年6月10日、16日及び22日実施分）	595	332
8月分 （平成23年7月12日、19日実施分）	791	230
9月分 （平成23年8月9日、18日実施分）	1,254	291
合　計	45,200	3,498
	48,698	

資料：農林水産省「加工用原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の定例販売の結果について」、「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

③ SBS米の販売状況(平成23年度)

（単位：トン）

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回（平成23年9月21日）	一般米	3,386	1,326	238	－	13,802	－	－	－	18,752
	砕精米	2,276	414	660	－	100	－	－	－	3,450
第2回（平成23年10月28日）	一般米	1,484	1,186	316	－	17,034	－	1,118	－	21,138
	砕精米	4,184	216	600	－	－	－	－	－	5,000
第3回（平成23年12月9日）	一般米	1,534	2,074	984	－	14,630	－	5,778	－	25,000
	砕精米	1,444	252	900	2,188	216	－	－	－	5,000
合計	一般米	6,404	4,586	1,538	0	45,466	0	6,896	0	64,890
	砕精米	7,904	882	2,160	2,188	316	0	0	0	13,450
平成22年度計 （参考）	一般米	2,904	2,228	1,880	120	2,936	0	538	0	10,606
	砕精米	16,438	640	9,010	0	532	0	0	0	26,620

資料：農林水産省「平成22年度輸入米に係るSBSの結果の概要」、「平成23年度輸入米に係るSBSの結果の概要」